Petersb. **23**: 324 (1877).

Forma **purpureocalcarata** H.Igarashi. f. nov.

A typo calcaribus purpureis differt cetera ut in typo.

TYPE: JAPAN; Hokkaido, Oshima Prov., Kameda-gun, Nanae-cho, Onuma alt. 250m, 29 April 1998, H. Igarashi 98111 (TNS).

Nom. Jap.: Otome-sumire-saishin (nov.).

和名：オトメスミレサイシン（新称）

Viola kusanoana Makino in Bot. Mag. Tokyo **26**: 173 (1912).

Forma **subrosea** H.Igarashi, f. nov.

A typo petalis subroseis differt cetera ut in typo.

TYPE: JAPAN; Hokkaido, Hiyama Prov., Kuto-gun, Otobe-cho, Miyanomori Park alt. 25m, 5 May 1993, H. Igarashi 93012 (TNS).

Nom. Jap.: Sakurairo-ô-tachitubo-sumire (nov.).

和名：サクライロオオタチツボスミレ（新称）

参考文献

橋本　保　1967. 日本のスミレ. pp. 122, 141. 誠文堂新光社, 東京.

浜　栄助　1975. 原色日本のスミレ, pp. 42, 49–50, 138, 146–147. 誠文堂新光社, 東京.

——（編）1987. 写真集日本のすみれ. pp. 88–89, 96. 誠文堂新光社, 東京.

いがりまさし　1996. 山渓ハンディ図鑑 6 . 日本のスミレ. 247pp. 山と渓谷社, 東京.

籾山泰一　1982. スミレ科. 日本の野生植物. 草本 II. 離弁花類. pp. 243–253. 平凡社, 東京.

（北海道野生植物研究所
〒001-0013 札幌市北区北13条西3-13）

ケマルバスミレ北海道に産す（五十嵐　博[a], 梅沢　俊[b]）

Hiroshi IGARASHI[a] and Shun UMEZAWA[b]: *Viola keiskei* Miq. New to the Flora of Hokkaido

ケマルバスミレ *Vioka keiskei* Miq. の分布域は，従来，青森県南部を北限として本州，四国，九州および朝鮮であるとされていた（橋本　1967，浜　1975，1987，籾山　1982，いがり　1996）．しかし，1993年から1999年の北海道におけるスミレ属植物の分布調査で胆振支庁の苫小牧市森田沼，日高支庁の様似町ポンアブサリ川，同町ニカンベツ川及びえりも町幌泉川，十勝支庁の広尾町大丸山森林公園などの数産地を確認したので報告する．

北海道における本種の記録は，菅原繁蔵（1958）の松前町渡島大島からの報告がある他，山本岩亀（1938）の島牧村狩場山，さらに菅原繁蔵（1953，1961）による函館市，苫小牧市などがあるが，北海道大学付属植物園，小樽市立博物館，市立函館博物館に収められている証拠標本を同定したところ，ケタチツボスミレ，ウスバスミレ，エゾノアオイスミレであり，同定の誤りであった．

五十嵐は1993年に苫小牧市樽前の森田沼畔で本種を確認していたが，当地は個人の所有であり，庭園的な環境で本州から移入された樹木が多数植栽されている．本種がこのような人工的な場所に群落をなしていることから本州から根付きなどで持ち込まれた可能性が高く，移入種と判断した．

梅沢は「山の花図鑑アポイ岳」の出版にあたり（梅沢　1995），様似町アポイ岳山麓2ケ所で，本種を継続確認していた．花時の姿はアオイスミレ *V. hondoensis* に似るが，花後に走出枝を出さず，葉もあまり大きくならないこと，また，産地が超塩基性岩地であることから，疑問を抱きながらもこれまでの見解（高橋　1973，籾山　1982）に従い，エゾアオイスミレ *V. collina* としてこれを収録した．

五十嵐の1996年からの調査では，本種はアポイ岳山麓部だけでなく，様似町とえりも町にわたって広く分布していることが判明した．1998年の調査では十勝支庁の広尾町でも確認され，ここではアオイスミレ，オオタチツボスミレなどと混生していた．1999年は詳しい分布調査を行うとともに側弁の毛の状態も観察を行った．苫小牧市産はすべて無毛であり，

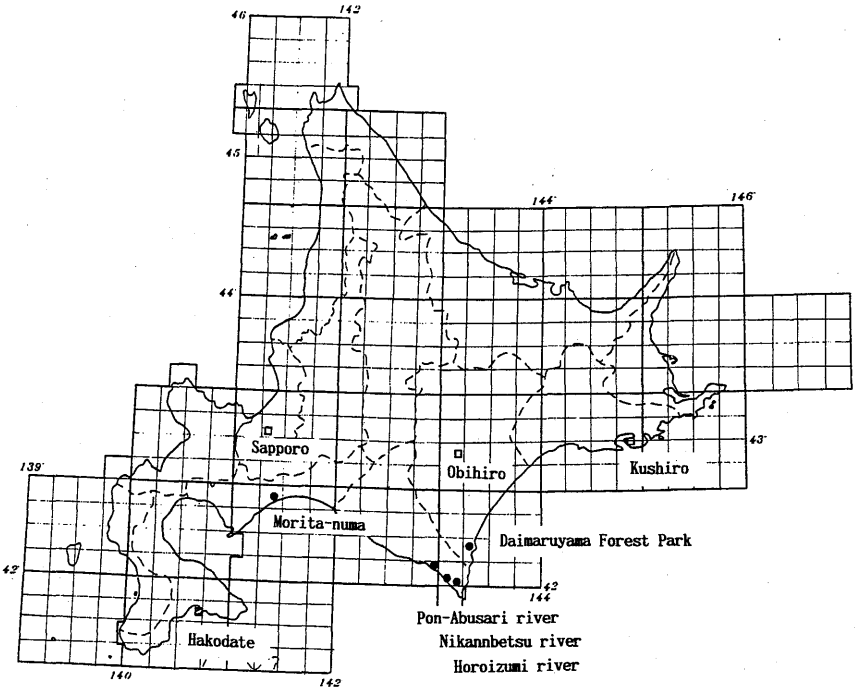

Fig. 1. Distribution of *Viola keiskei* Miq. in Hokkaido, Japan.

様似町とえりも町産は有毛と無毛が混成していたが，広尾町産はすべてが有毛であり，檜山（1942）の報告したヒゲケマルバスミレ f. *barbata* Hiyama であった．しかし，浜（1975）に記載のある「側弁有毛のもので，かなり多くある」に従って今回は分けていない．

道内確認産地は Fig. 1. に示した．北海道での確認産地も増加したので新たな北限の産地としてここに報告する．

証拠標本は，国立科学博物館（TNS）に収めた．本稿をまとめるにあたり，門田裕一博士に貴重なご助言をいただいた．本種の日高での確認に当たっては，当時様似町教育委員会勤務の芥川浩典氏に現地を案内して頂いたのが確認の糸口になった．広尾町での確認では友人の松井　洋氏にお世話になった．ここに記して感謝の意を表したい．

Viola keiskei Miq. in Ann. Mus. Bot. Lugd.-Bat. 2: 153（1866）.

Fig. 2. *Viola keiskei* Miq. Photo taken at Samani-cho, River Pon-Abusarigawa, Hokkaido, on 11 May 1996, by H. Igarashi.

Hab.: JAPAN; Hokkaido, Tomakomai-shi, Tarumae, Morita-numa, 9 June 1996, H. Igarashi 96005 (TNS); Samani-cho River Pon-Abusari-gawa, 11 May 1996, H. Igarashi 96003 (TNS) (Fig. 2); Erimo-cho, an upper stream of River Horoizumigawa, 12 May 1996, H. Igarashi 96004 (TNS); Nikanbetsu, 24 April 1999, H. Igarashi 96001 (TNS); Hiroo-cho, Daimaruyama Forest Park, 8 May 1999, H. Igarashi 96002 (TNS).

引用文献

橋本　保　1967. 日本のスミレ. pp. 87–91. 誠文堂新光社，東京.

浜　栄助　1975. 原色日本のスミレ. pp. 184, 191–192. 誠文堂新光社，東京.

——（編）1987. 写真集日本のすみれ. pp. 42–43. 誠文堂新光社，東京.

檜山庫三　1942. 植物雑記帖より. ヒゲケマルバスミレ. 野草 (3): 7–8.

いがりまさし　1996. 山渓ハンディ図鑑 6. 日本のスミレ. pp. 150–151. 山と渓谷社，東京.

籾山泰一　1982. スミレ科. 日本の野生植物. 草本 II. 離弁花類. pp. 243–253. 平凡社，東京.

高橋　誼　1973. アポイ岳の高山植物. p. 13. 北海道様似町.

梅沢　俊　1995. 北海道山の花図鑑. アポイ岳・様似山道・ピンネシリ. p. 72. 北海道新聞社，札幌.

([a]北海道野生植物研究所
〒001-0013 札幌市北区北13条西3-13,
[b]〒005-[redacted] 札幌市[redacted])